

<b>取り組んだ テーマ</b>	<b>『生活環境に課題のある児童生徒の家庭への働きかけや具体的支援』</b>
----------------------	--

### 1 達成に向けた手立て

事例を持ち寄ることでのアセスメント能力の向上、解決能力の向上  
社会資源活用能力の向上

### 2 取組の成果と課題

成 果	課 題
<p>中学校男子生徒 不登校 暴力、難病の父を持つ ヤングケアラー事案。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会資源の導入（障害者手帳取得支援、訪問看護、訪問介護など）：地域共生センター（社協）との協働</li> <li>・本人と母との信頼関係を構築して学習支援、運動（外出支援）、外部学習支援施設への関与への支援を行った。授業のリモート支援に若い先生を連れて行くなど他者との関わりを意図的に持った。</li> <li>・ネットへの依存もあり、健康面と学習面へのサポートを行った。</li> <li>・今年1月に父は他界。死去後の生活手続き支援、母への心の支援（SCと協働）も行っている。</li> <li>・家族の今後の他者との関わりのため、SSW以外に、民生委員や地域の退職校長など地域の社会資源</li> <li>・目標は、来年の修学旅行への参加</li> <li>・本人の成長に伴う、成功事例の構築で先生への業務負担の軽減、関係構築</li> </ul> <p>→生前からの関わりの形成をしていることの意義</p>	<p>この事例では複数年の関わりの中での成果と言える。</p> <p>SSWの支援は対人であるため、属人的にならざるを得ない。そのため、年度契約（3月上旬終了）では関わりの継続が難しい。せめて年度末までの契約か3年などの複数年契約が望ましい。</p>

### 3 次年度に向けて

より多くの社会資源（機関・人）への関わりを持つことでの体験を増やす。繋がりを増やす。  
（発達検査（得意不得意の発見）放課後デイ（こども同士の関わり）などの利用）